


ふりがな 氏名	はまぐち ゆうこ	都道府県	愛知県	
	浜口 祐子			
所属/肩書	インタープリターズ・ユニット 森あそび本舗/代表、NPO 法人 もりの学舎自然学校/理事、国立大学法人名古屋工業大学 コミュニティ創成教育研究センター/特任研究員			
私の ESD活動	環境教育プログラムの開発・実施、インタープリターの育成、工学によるコミュニティ支援のコーディネート			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は学生時代からこれまで、「体験から学ぶことで生きる力を育む」場をつくりたい、という思いから、キャンプカウンセラー、幼稚園教諭、インタープリター（自然案内人）、環境教育をベースとしたイベント・プログラムの企画実施、公共施設運営、工学と市民をつなぐコーディネーター等、様々な分野で活動してきた。現在の主な活動は下記の通り。

【体験型環境教育プログラムの開発・実施】

愛・地球博「森の自然学校」のインタープリターとして、自然観察以外の目的で訪れた来場者に対して、自然体感型環境教育プログラムを提供。その結果、参加者が身近な自然の中で新たな発見・感動を得るきっかけとなった。万博後は、その経験を活かして、主に都市公園など身近な自然をフィールドに、参加者自らが自然のおもしろさに気づききっかけとなるプログラムを開発・実施している。近年は、行政・企業・NPO・大学等、多様な主体との協働で開発・実施するプログラムも増えている。

【インタープリターの育成】

愛知県が運営する環境学習施設「もりの学舎(まなびや)」の開館当初から現在まで、施設運営、インタープリターの育成等に携わっている。大学生や、社会人として働きながら、あるいは定年退職後に活動を始めた「市民インタープリター」を対象に、日々の活動での OJT や定期的な研修を実施している。その結果、インタープリター自身が参加者の気づきの場をつくる活動にやりがいを感じている。

【工学によるコミュニティ支援のコーディネート】

名古屋工業大学で研究している工学技術を、地域コミュニティの支援に役立てるため、研究者と行政・地域住民等との間をつなぐコーディネーターとして活動している。例えば、タブレット端末を使った高齢者の生活支援のシステム開発では、地域住民のニーズと研究者の持つシーズの接点を探り、調整を進めた。その結果、地域課題を住民自らが気づき、行動を起こすきっかけとなっている。

・「もりの学舎」(あいち環境学習情報ライブラリー内): <http://www.aichi-kankyo-gakushu-plaza-unet.ocn.ne.jp/manabiya/>

・名古屋工業大学 コミュニティ創成教育研究センター: <http://community.web.nitech.ac.jp/>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESD の更なる発展のためには、異分野間の相互理解とコミュニケーションが大切である。自分とは異なる考え方を受け入れた上で、自分の考えを伝え、それらを融合していくには、新しいものを受け入れる柔軟性を持った若者が重要な役割を果たすと考えている。また、若者がある活動にかかるエネルギーは、活動全体の推進力となり、周りの人・もの・ことを巻き込んで活動を広げる可能性を持っている。こういった若者の柔軟性とエネルギーを活かして、異分野間の人や活動をつなぐコーディネーターの役割を担うことができるのではないかと考えている。

次世代を担う存在である若者が核となることで、活動の継続性を高め、世代間を超えるつなぎ役として、ESD の発展に寄与できると考えている。